

平成27年度 子どもゆめ基金 体験の風リレーションシップ事業 おおすみくん家 キッズたんけんたい①

- 1 趣 旨 小学校低学年の子供たちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、遊んだり、協力したりする体験をとおして、自分に自信を持てるようにするとともに、体験活動の好きな子供を育てる。
- 2 期 日 平成27年6月20日(土)～21日(日) 1泊2日
- 3 対象者 小学校1・2年生
- 4 募集定員 40人 (申込者：166名)
- 5 参加者 68人
- 6 指導者 お話文庫P o 絵夢
国立大隅青少年自然の家職員



7 日程と主な活動

1日目 6月20日(土)		2日目 6月21日(日)	
10:00	・受付	6:00	・起床
10:30	・出会いのつどい ・オリエンテーション		・荷物の整理
10:45	<チャレンジ1> 「ふれあいタイム」	7:00	・朝のつどい
12:00	・昼食(レストラン)	7:15	<チャレンジ4> 「カートンドッグを作ろう」 (朝食)
13:30	<チャレンジ2> 「海遊びをしよう」	9:30	<チャレンジ5> 「友だちと遊ぼう・作って遊ぼう」
18:00	・夕食(レストラン)		・室内スポーツ・袋ロケット作り
19:00	<チャレンジ3> 「お話の国へ行こう」(読み聞かせ)	12:00	・昼食
20:00	・入浴	13:00	・ふりかえりタイム
21:00	・就寝準備	14:00	・別れのつどい
21:30	・就寝	14:30	・解散

8 事業運営について

小学校低学年が主体ということで、体験を通じた友だちとの交流活動や基本的な生活体験を位置づけてプログラムを計画した。また、より多くの子供たちに体験をさせるために定員以上の参加者で実施をした。

- (1) 早寝早起き朝ごはんの実施や食事及び寝具の準備、後片付け等の活動を通して、基本的な生活習慣への意識を高めさせるようにした。
- (2) 海遊びなどの自然体験活動、室内スポーツや袋ロケット作りの創作活動を通して、体験することの楽しさを味わえるようにした。
- (3) ふれあいタイムや朝食作りの活動を通して、友だちの良さや協力することの大切さに気付かせるようにした。

9 事業実際

(1) ふれあいタイム

ふれあいタイムでは、初めて会う参加者同士が、緊張をほぐしながら打ち解けられるように、「自己紹介すごろく」を行った。班付きのリーダーを中心に進めることで、コミュニケーションをとることが苦手な子供たちも、楽しみながら自己紹介をすることができた。

(2) 海遊びをしよう

海浜施設で海遊びとサンドクラフトを実施した。海に入ることを楽しみにしていた子供たちは、水を掛け合ったり浮島（ゴムボート）にのったりして楽しむことができた。全員ライフジャケットを着用して、職員及びボランティアの監視体制のもと、安全確保を十分に行った。サンドクラフトはグループごとに、何を作るか話し合いながら楽しく活動することができていた。

(3) 読書を楽しもう

読み聞かせのボランティアグループ「お話文庫P o 絵夢」の方々に、大型絵本や紙芝居、指遊びなどの活動をしていただいた。いざ、読み聞かせが始まると、真剣な表情で話に聞き入り、途中で歓声があがったり、笑い声が出たりしながら大いに楽しむことができた。読み聞かせだけでなく、手遊びや指遊びなどを取り入れながら、子供たちが飽きないように工夫されていた。

(4) カートンドッグを作ろう

2日目の朝食は、低学年でも簡単にできるカートンドッグ作りを行った。全体指導後にグループごとに調理をした。パンにキャベツとソーセージをはさんで、アルミ箔で包み、牛乳パックに入れて焼くという簡単な作業であるが、子供たちは一生懸命取り組んでいた。自分で作ったものをおいしそうに食べていた。

(5) 友だちと遊ぼう・作って遊ぼう

2日目の午前中は、室内スポーツと袋ロケット作りを行った。室内スポーツは、トラバースとRDチャレンジとシャッフルボードと輪投げの4種目をローテーションして楽しんでいた。基本的なルールは決めていたが、グループごとに独自の楽しみ方を考えて工夫して活動する場面も多く見られた。袋ロケット作りは、誰でも簡単にできるということで、みんな意欲的に製作に取り組んでいた。完成後は、つどいの広場に出て飛ばして遊んだ。思っていた以上によく飛ぶので、子供たちも喜んでた。

10 成果

- 親元を離れて宿泊を伴う生活ということもあって不安や緊張を抱える中、各種体験活動や共同生活を体験することで、自立心や自信を養うことができた。
- 係や掃除当番について、役割の確認と分担を事前に行ったことによって、自分のやる事が明確になり、責任感を高めることができた。
- 交流活動、自然体験、読書活動、創作活動など様々な内容を計画したことによって、子供たちは楽しく活動に取り組むことができた。
- 「早寝早起き朝ごはん」運動やきまりを守ることを意識させながら生活させることができた。

